

## 七転び，八起き 一教職大学院での学びを現場で活かす一

その4 さいごに 「今を思い，これからを考える」

これまで述べてきたように、大学院での学びの中で得た3つの出会いを通して、今まで自分の中にあっただ様な疑問や不安に対する答えが少しずつ見えてきました。それは、これまで漠然と不安に感じていたものの正体を探る術、そして、それを見つけ、解決していく術やその先に進む術を知ることができたからだと思います。つまり、大学院での学びを通して、学び方を学ぶことができ、自らの進むべき道筋を示す羅針盤を見つけるとともに、その見方を知ることができるようになったと感じています。

しかし、その進むべき路は絶対的な方向を示すものではないということにも気付かされました。所変われば品変わる。言換えれば、その地域の文化や風土、学校の環境、個々の子供たちの状態によっても、その見つけた答えが進むべき路となることもあれば、まったく違った方向に進む路となってしまうこともあります。だからこそ、私は目の前の子供たちとしっかりと向き合いながら、失敗を恐れずにチャレンジしていく七転び八起きの精神を大切にしていきたいと思っています。上手くいかないことはたくさんあるかもしれませんが、そうした中にもたくさんの気づきや成果があり、次につながる大きなヒントがあることが分かったからです。

一方で、子供たちのよりよい成長を促すためには、今ある条件の中から個に応じた最適解を探し出していける教育環境の構築が必要になってきます。そのためには、多種多様な個が有機的に結び付き、様々な気づきを共有し合える学校教育のシステムが必要となります。つまり、教育に携わる人々全員が、相互に連携を図りながら学校教育を推進していけるシステムを構築していけるように尽力していくことが重要となることを、大学院での学びを終えて現場に復帰した今だからこそ日々の実践の中でより強く感じるようになりました。

私の教員人生はまだ道半ば。Kurt Lewinの「理論なき実践は盲目であり、実践なき理論は空虚である」という言葉を大切にしながら、今後教育現場において教育のプロとしての自覚と意識をしっかりともち、様々な教育活動実践を心がけていきたいです。そして、大学院での2年間の学びを子供たちにしっかりと還元するとともに、同僚の教職員はもちろん、他校、他地区、他校種、他職種など、様々な垣根を越えてその学びを共有し、広げていけるような教員となれるように引き続き学びを継続していきたいです。また、こうした学びは私一人では得ることができなかつたものです。この2年間を通して私自身多くの人々の支えをより実感するとともに、そのことに気付かせてくれたたくさんの出会いと支えのありがたみに感謝の気持ちがいっぱいです。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

最後になりますが、全4回にわたり連載させていただき本当にありがとうございました。

(福島県喜多方市立第二中学校 吉村憲治)